

環境レポート 2004

2003年度(2003年4月1日～2004年3月31日)

環境報告書

ならびに2004年度環境事業計画



目次

■環境保全活動のあゆみ	1
■巻頭言・表彰履歴	2
■環境政策	3
■環境マネジメントシステム	
●方針・体制	4
●目的・目標	5
●2003年度結果	6
●環境に対する法律等への対応	7
●職員教育、事故緊急時対応、内部環境監査	8
●コミュニケーション、定期サーベイランス、環境コスト	9
■環境保全活動のまとめ	
●組合員とともにすすめた取り組み	10
●リサイクル・省資源の取り組み	11
■事業活動に伴う環境負荷軽減の取り組み	
●省エネ・省資源	13
●廃棄物削減・リサイクル・環境に配慮した商品の普及	14
■2003年度環境監査報告書	15
■2003年度環境監査報告書への対応	16
■2004年度計画	17
■2003年度の社会的取り組み	
●コンプライアンス宣言	18
●安心・安全の商品事業の追求	19
●相互扶助の社会を目指して	20
●男女共同参画社会を目指して	21
■資料	22

ならコープ 環境保全活動の 歩み

1974年	設立と同時にリターナブル瓶の回収開始
1978年	河川浄化のための請願署名(58,000筆)県議会採択 業務用ラップをポリエチレンに変更
1979年	買い物袋持参運動開始
1982年	スーパーバッグの有料化開始(新規組合員に買い物袋無料配布)
1990年	牛乳パックリサイクル開始 コープ低公害車開発研究に参加 発泡スチロール漁箱の熔融リサイクル開始
1991年	ならコープ環境基本政策策定 空き缶及びPSP食品トレーリサイクル開始
1992年	雨水再利用施設を2事業所に設置 環境測定活動の開始 地球サミットへの代表派遣(3人)
1993年	PETボトルリサイクル開始
1994年	LPガストラック(配送車)の導入開始 PSPトレーの再商品化として卵トレー 「まもるくん」開発(積水化成成品工業と共同)
1995年	ごみ問題での市町村との懇談がすすみ、 行政フェアへの参加が始まる
1996年	卵パックのリサイクル開始 「水辺環境フォーラム宣言」を建設省に提出
1997年	COP3の開催を機に「ならコープエコライフ宣言」発表 PETボトル中間処理施設設置
1998年	環境マネジメント・監査システム導入 塩素系食品ラップの供給を全面中止
1999年	LPガス簡易スタンド設置 共同購入カタログ自己完結型リサイクル開始
2000年	生ごみ処理機設置
2001年	新環境政策の策定
2002年	ISO14001システム構築・運用開始
2003年	内掛袋リサイクル開始 ISO14001認証
2004年	食品リサイクル事業者と委託契約し再資源化 (コープ朱雀の生ごみを100%飼料化)

ISO14001認証取得後の1年次サーベイランスで「向上」評価を得たことに感謝し、 今後も組合員と地域社会の期待に応えられるよう、 より積極的な環境保全活動を推進します

このたび、ISO14001認証取得後の1年次サーベイランス（2004年2月）で「向上」評価を得て、ならコープの環境マネジメントシステムが前進したことが確認できました。関係者の皆様からのご協力とご支援の賜物であり、厚く感謝申し上げます。また、共同購入事業でのカタログリサイクルの前進と店舗事業での高い買物袋持参率等の評価によってリデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞を受賞できました。これらの成果を確信にして、新たな前進を開始する所存です。

ならコープは創立以来、「かけがえのない地球と奈良の豊かな自然を次世代の子どもたちに引継ぎたい」と考えて事業と活動を行ってきました。2004年7月にはならコープは創立30周年を迎えることとなりますが、環境保全活動を創立基本理念として再確認し環境活動を強化発展させていきます。創立30周年を機会に、多くの市民・組合員の参加を得ることを重視した、積極的なリサイクル活動の実践と「くらし見直し運動」を地域社会の隅々まで広げていきたいと考えます。皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、2004年度からスタートする「第7次中期計画」においては、組合員とともにすすめる環境保全活動をさらに前進させたいと思います。加えて、事業でも環境配慮の継続的な取り組みで大きな成果を上げることを目標にしたいと思います。まず第1に環境配慮型商品とサービスの普及を強化します。その一つに有機農産物と地元奈良県産農産物の取り扱い拡大を課題としています。これは創立30周年を記念して実施する「食べる“なら”大和」商品普及キャンペーンとも関連したものです。地場産品育成というならコープ創業理念に基づいて行うもので、奈良県下各地域で取り組まれている環境保全型農業との提携事業であり、ならコープがすすめる地産地消運動でもあります。第2に「環境方針」に基づいて事業活動に伴う電気・車両燃料・事務用紙等の使用量削減を進めます。第3に廃棄商品削減・再資源化を重視します。事業活動における二酸化炭素排出抑制の計画づくりとその実践が事業体としての社会的責任を果たす上から重要な実践課題となっています。第4に施設開発での環境配慮を推進します。太陽光市民発電運動の経験から学び、既存施設の環境負荷度調査を実施し、同時に新規施設開設時の環境配慮を推進します。第5に組合員活動では創立30周年を生かした買物袋持参運動の推進や容器包装と共同購入カタログリサイクルへの参加を広げます。第6に積極的に組合員による環境保全活動を支援します。環境配慮型商品の普及活動、環境測定活動などを通じたグリーンコンシューマ^{※3}運動を前進させ、行政や諸団体との連携を強化します。1991年から続けてきた総事業高の1/1000（0.1%）の環境活動推進資金の有効性評価を行い、使途見直しを実施します。以上のように環境の世紀といわれる21世紀における「ならコープの使命」をしっかりと自覚して、2004年度の環境保全活動と事業活動を展開していく決意です。奈良県内や地域社会でリーダー的役割を発揮できるよう、20万人を超える組合員とともに地域社会の皆様とも手をたずさえて一層、取り組みを強化したいと考えます。

最後に、現段階では冒頭の成果があがったものの、私たちの取り組みはまだまだ不十分なものであります。ここに2003年度の環境保全活動報告をまとめさせていただきました。関係者の皆様から、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。



専務理事 森 宏之

行政・業界からの 表彰履歴

1992年 リサイクル推進協議会会長賞
1994年 アルミ缶回収協力者賞（筆頭）
1995年 奈良市地球環境賞
1997年 環境庁「地域環境保全功労者賞」

2000年 奈良県地域環境保全功労者賞（知事賞）
2003年 リデュース・リユース・リサイクル
推進協議会会長賞

～新環境政策～

ならコープでは1991年に環境基本政策を制定し、取り組みをすすめてきました。10年を経過し、その到達評価を行い、環境をめぐる情勢の変化を踏まえて、2001年新たに「新環境政策」を策定しました。

理 念

ならコープは、創立以来「よりよい生活は、平和とよりよい環境の中でこそ実現する」と考え、「安心・安全」を求めてさまざまな活動を展開してきました。地球規模での環境破壊が深刻化する中、私たちはこのかけがえない地球と奈良の豊かな自然を次世代の子どもたちに引継ぎ、より良い環境を協同の力で実現することが、多くの市民が参加する組織としての責務であると認識し、環境保全活動を生協の理念に関わるものと位置づけ、すべての活動の基本として捉えます。

基本的な 考え方

- 1) ならコープは環境保全への組合員の思いや願いの実現を追求します。
- 2) ならコープは学習をすべての環境保全活動の基本にし、組合員参加を広げ、自発的な市民としてライフスタイルの転換をすすめ、グリーンコンシューマーを増やすことを目指します。
- 3) ならコープは、事業者責任を率先して果たし、環境を重視した新しい価値観に基づいた事業活動の展開に努めます。
- 4) ならコープは地域の中で行政や様々な組織・個人と連携・協力し、環境保全のまちづくり・ひとづくりをすすめ、持続可能な社会の実現に向けて努力します。

組合員活動の課題

- ①組合員とともに環境保全活動を実践します。
- ②環境の4R（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）の実践をすすめます。
- ③河川の浄化、農地、里山、山林を守る自然環境保全の活動やグリーンツーリズムや国際支援の研究をすすめます。
- ④生産者との交流や学習を積極的に行ないながら、「地産地消」「食の循環システム」の確立に向けて、研究をすすめます。
- ⑤県及び市町村との連携や懇談をすすめます。
- ⑥環境教育、学習、情報の体系的整備をすすめます。
- ⑦地域での環境活動団体への交流・連携、ひとづくりを積極的にすすめます。

商品事業の課題

- ①環境配慮型商品の定義づけ、リスト管理のしくみを整理し、商品の普及に努めます。
- ②「食品の安全」と「環境」の視点で商品づくりをすすめます。
- ③容器包装材の簡素化と材質点検をすすめます。
- ④商品への環境関連情報表示の整備をすすめます。

事業活動の課題

- ①事業系廃棄物のゼロエミッション化をめざすとともに、循環型社会システム構築に向けて努力します。
- ②事業活動に伴う有害化学物質の低減をすすめます。
- ③リフォーム・リペア、リサイクルなどエコビジネスの研究をすすめます。
- ④環境マネジメント推進体制を整備します。



環境マネジメントシステム

ならコープは1998年11月から自主的な環境マネジメントシステムを導入し、取り組みをすすめてきましたが、2003年3月に環境マネジメントの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。

環境方針

市民生活協同組合ならコープは環境保全の活動を生活協同組合の理念に関わるものと位置付け、持続可能な循環型社会の形成をめざし、地域社会とともに取り組みをすすめます。

ならコープは食品を中心とした商品の供給及び共済・サービス、組合員活動などの事業を行っています。

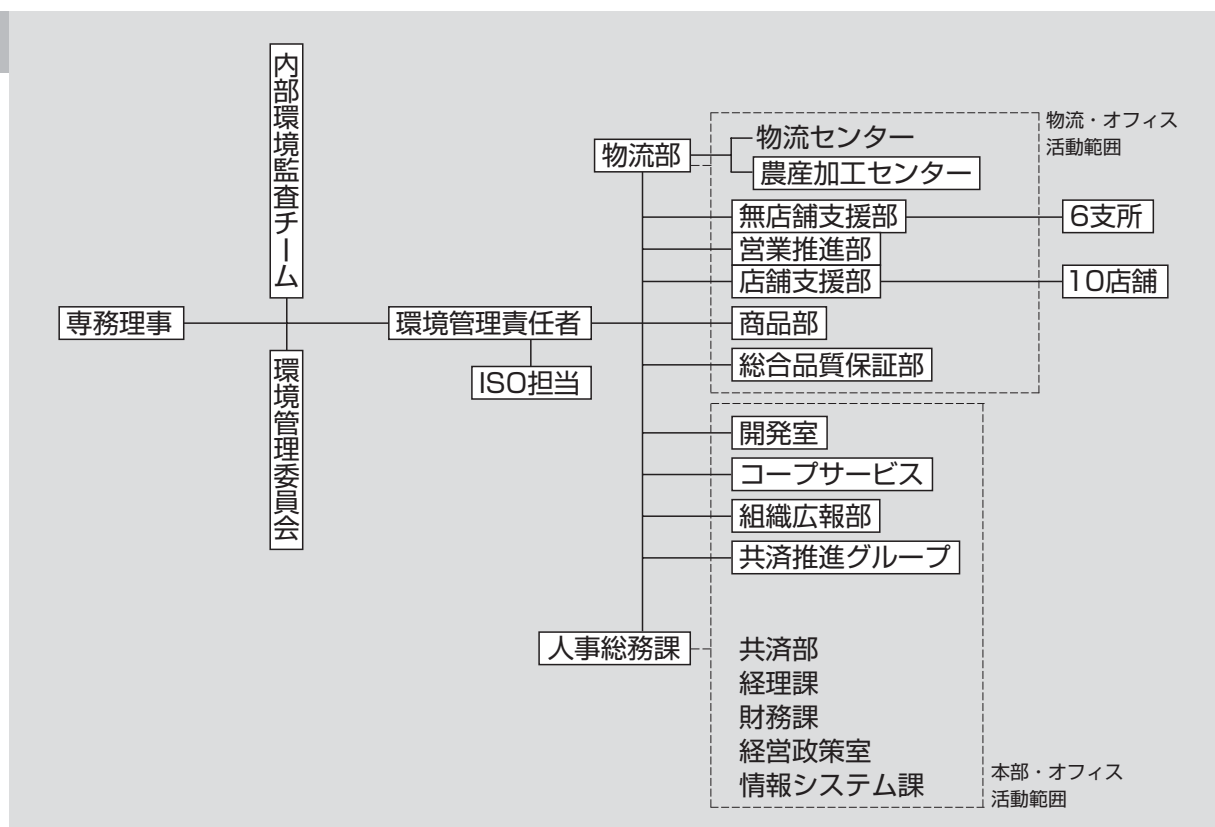
これらの活動、商品、サービスによる環境影響の大きな項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で目的・目標を設定し、環境負荷の軽減と汚染の予防、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。また、環境関連の法令、条例、受け入れを決めたその他要求事項を遵守します。

1. 環境に配慮した商品の品目を増やし、積極的に普及します。商品の容器包装の削減につとめます。また環境に配慮したサービスの普及をはかります。
2. 事業活動に伴う電気使用量及び車両燃料の使用量を抑制し、事務用紙の使用量削減をすすめます。
3. 事業系廃棄物の削減と再資源化をすすめます。
4. ならコープの施設開発での環境配慮を推進します。
5. 買い物袋持参運動を積極的に呼びかけレジ袋の使用量の抑制をすすめ、また牛乳パック、PETボトル、食品トレイ、空き缶、卵パック、シッパーの内掛け袋および共同購入カタログのリサイクルへの参加を広げます。
6. 組合員による環境保全活動を積極的に支援します。

この環境方針をならコープ内外に公表し、定期的に環境報告書の発行を行います。また方針の具体化をはかり、実現のために全職員への周知・教育を行います。

2002年9月23日制定
市民生活協同組合ならコープ
専務理事 森 宏之

体制



環境マネジメントシステム

ならコープ全体の環境目的と環境目標

環境方針	全体の環境目的(2005年3月の到達)	環境目標(2004年3月の到達)	実施部署
環境に配慮した商品の品目を増やし、積極的に普及します	環境に配慮した商品の品目を拡大し、普及する	減農業栽培農産物2品目、産地指定農産物2品目増やし、共同購入及び店舗での供給を開始する。	商品部
		6月の環境月間に合わせて、月間普及商品の選定と情報の提供など、普及活動への援助を行う。	商品部
		6月、11月に重点環境配慮型商品普及点数を2001年度実績対比101%を達成する。	店舗
商品の容器包装の削減につとめます	商品の容器包装の削減をおこなう	・ならコープ商品における容器・包装資材使用量削減可能品目のリストアップと取引先交渉を行う ・NB商品について商談時に取引先へ容器包装使用量削減のお知らせを行う	商品部
		ナショナルブランド品に関して、取引先100社に対し商談時容器・包装資材使用量削減のお知らせを毎年5月に行なう。	商品部
環境に配慮したサービスの普及をはかります	環境に配慮したサービスの普及をすすめる	ふとん打ち直し利用者を2001年度比10%増やします	コープサービス
事業活動に伴う電気使用量を抑制します	事業活動に伴う電気使用量を2001年度対比108%に抑制する	事業活動に伴う電気使用量2001年度実績対比106.2%に抑制する	全部署
事業活動に伴う車両燃料の使用量を抑制します	配送及び仲間づくりでの車両燃料の使用を配送(訪問)ポイントあたりで削減し、排気ガスの削減をすすめる	配達100P当りの使用量を前年比100%とする。 配送コースの改善の実施 PW実験と導入判断	全支所
		仲間づくり訪問ポイント100件当りの使用燃料を2002年度実績対比100%に抑制する	営業推進部
		共済推進Gの訪問ポイント100件当りの使用燃料目標を設定し、使用量を管理する 業務車両(一部)の原動機付自転車への切り替えを計画する	
事務用紙の使用量削減をすすめます	コピー用紙の使用量を2001年度実績対比96%に削減する	コピー用紙の使用量を2001年度実績対比99.2%に削減する	全部署
事業系廃棄物の削減と再資源化をすすめます	事業系廃棄物を2002年度実績対比98%に削減する	発泡漁箱リサイクル処理量を2002年度対比107%に増加させる	物流部
	PB商品の偽装防止をすすめ、回収等による事業系廃棄物の削減をします	事業系廃棄物の削減(支所・店舗・物流)での排出量を504725.8kg以下に抑制する PB商品取引先点検を計画し実施します。	全支所・全店舗・物流センター 総合品質保証部
買い物袋持参運動を積極的に呼びかけ、レジ袋の使用量の抑制をすすめます	マイバッグ、マイカゴの普及をすすめ、買い物袋持参運動を推進する	マイかご・マイバッグを2450個普及する	全店舗
容器包装及び共同購入カタログリサイクルへの参加を広げます	内掛け袋のリサイクルを実施し回収率30%を達成する	全支所で内掛け袋の回収をスタートし、回収率を20%以上にする	物流部
	共同購入カタログの回収率を2001年度対比3%増やす	カタログの回収率2001年度対比2%増加させる	無店舗支援部
	組合員からのリサイクルの回収を推進します ・牛乳パック 2001年度実績対比3%減に維持 ・PETボトル 2001年度対比5%増加 ・食品トレー 2001年度対比5%増加 ・空き缶 2001年度実績対比3%減 ・卵パック 2001年度対比3%増加	牛乳パックの回収量2001年度2%減に維持 PETボトルの回収量を2001年度実績対比4%増加 食品トレーの回収量を2001年度実績対比4%増加 空き缶の回収量を2001年度実績の2%減に維持 卵パックの回収量を2001年度実績対比3%増加	組織広報部
組合員による環境保全活動を積極的に支援します	環境測定活動、環境家計簿の参加を呼びかけ、くらしの見なおし活動をすすめる	環境測定活動募集と実施 環境家計簿活動の案内と参加呼びかけをする	組織広報部
ならコープの施設開発での環境配慮を推進します	既存施設のリサイクル可能度・環境負荷度の調査を行ない、開発手順書の作成する	既存施設のリサイクル可能度、環境負荷度の調査 改修工事に調査結果の反映とコスト削減をめざす。	開発室

2003年度の取り組みの結果

2003年度計画	実績	評価
減農薬栽培農産物2品目、産地指定農産物2品目増やし、共同購入及び店舗での供給を開始する	6産地10品目を供給	○
ならコープ商品における容器・包装資材使用量削減可能品目のリストアップと取引先交渉を行なう	10品目でトレーの排除又は材質の変更を実施	○
PB商品について商談時に取引先へ容器包装使用量削減のお知らせを行なう	取引先へ要請文書を送付	○
ナショナルブランド品に関して、取引先100社に対し商談時容器・包装資材使用量削減のお知らせを毎年5月に行なう	取引先への要請文書を作成し、商談時に協力をお願いしました	○
6月の環境月間に合わせて、月間普及商品の選定と情報の提供など、普及活動への援助を行なう	普及商品のリストアップ化、供給数量目標などを起案	○
6月、11月に重点環境配慮型商品普及点数を2001年度実績対比101%にする	6月124.3%、11月163.9%	○
ふとん打ち直し利用者を2001年度（1,210名）対比10%増の1,331名にする	1,522人の利用	○
ふとん丸洗い利用者を2001年度（2,100名）対比10%増の2,310名にする	2,308人の利用	×
エアコンクリーニング利用者を2001年度（635名）対比10%増の699名にする	710人の利用	○
事業活動に伴う電気使用量を2001年度実績対比106.2%に抑制する	2001年度対比103.2%、目標対比97.2%（16,957,963kwh）に削減	○
配達100P当りの使用量を前年比100%とする	配達ポイント数が増加し102.8%、未達成	×
仲間づくり訪問ポイント100件当りの使用燃料を2002年度実績対比100%に抑制する	114.2%、未達成	×
共済推進Gの訪問ポイント100件当りの使用燃料目標を設定し、使用量を管理する	471.2%、未達成	×
コピー用紙の使用量を2001年度実績対比99.2%に削減する	目標対比109.1%（63,645kg）となり、5,323kgの超過	×
発泡漁箱リサイクル処理量を2002年度対比107%に増加させる	目標対比112.7%（30,924kg）を再資源化	○
事業系廃棄物の削減（支所・店舗・物流）での排出量を504,725.8kg以下に抑制する	目標対比96.0%、484,322.8kgに抑制	○
PB商品の偽装防止をすすめ、回収等による事業系廃棄物の削減をします	PB取引先84箇所点検	○
マイかご・マイバッグを2,450個普及する	3,469個普及	○
全支所で内掛け袋の回収をスタートし、回収率を20%以上にする	5月から全支所回収を実施し、回収率26%、達成	○
カタログの回収率2001年度対比2%増加（54.0%）させる	回収率57.7%、達成	○
牛乳パックの回収量2001年度2%減に維持する	目標対比103.2%／実績71,190kg	○
PETボトルの回収量を2001年度実績対比4%増加させる	目標対比125.7%／実績96,916kg	○
食品トレーの回収量を2001年度実績対比4%増加させる	目標対比150.1%／実績109,734kg	○
空き缶の回収量を2001年度実績の2%減に維持する	目標対比94.9%／実績62,520kg	×
卵パックの回収量を2001年度実績対比2%増加させる	目標対比186.4%／実績30,994kg	○
環境測定活動募集と実施	5月に募集し、6月に実施	○
環境家計簿活動の案内と参加呼びかけをする	86人が参加	○
既存施設のリサイクル可能度、環境負荷度の調査	9事業所の調査を実施	○
改修工事に調査結果の反映とコスト削減をめざす	工事手順書を作成	○



環境月間の取り組み

環境マネジメントシステム

環境に関する法律等への対応

環境に関連する法律・条例・協定等の遵守状況

法規制名	要求事項	該当事業所	評価
廃棄物処理法	産業廃棄物委託・保管基準・マニフェスト管理 特別管理産業廃棄物管理責任者の配置	全事業所 総合品質保証部	○
奈良県生活環境保全条例	事業者による廃棄物の減量の推進	全事業所	○
水質汚濁防止法・瀬戸内海環境保全特別措置法・水質汚濁防止法第3条第3項の規定による排水基準を定める条例	処理対象人員201人～500人の浄化槽の届出、排水水質基準の遵守と測定記録	ディアーズコープいこま、ディアーズコープたつたがわ、コープたかだ	○
水道法	貯水槽の清掃、点検	物流センター、農産加工センター、ディアーズコープいこま、ディアーズコープたつたがわ、コープみみなし、コープいまご	○
浄化槽法	浄化槽設置の届出、保守点検と清掃、定期検査の実施	コープ六条、ディアーズコープいこま、ディアーズコープたつたがわ、コープたかだ、生駒支所、高田支所	○
消防法	防火管理者の届出 指定可燃物貯蔵施設届出 自家発電施設の重油等危険物の貯蔵取扱責任者の設置と管理	全事業所 物流センター（統合支所含む）、北部支所、生駒支所、高田支所、桜井支所 物流センター	○
高圧ガス保安法	液化炭酸ガス・LPGスタンド設置の届出と基準遵守、点検・記録	物流センター	○
大気汚染防止法	自家発電装置の設置届出、ばい煙排出基準遵守・測定・記録	物流センター	○
奈良市アイドリング・ストップ条例	指定地域でのアイドリング・ストップ	全事業所	○
毒物及び劇物取締法	毒物劇物の管理基準、表示	総合品質保証部	○
改正資源リサイクル法	ならコープ商品及びならコープが指定する容器包装の分別表示	商品部、物流部	○
容器包装リサイクル法	ならコープ商品及び事業活動で使用する容器包装の再商品化、	ISO担当	○
家電リサイクル法	供給した指定家電の回収、事業所で廃棄する指定家電の引き取り要請	全事業所	○
食品リサイクル法	食品廃棄物の減量、再生20%（2006年度）	全事業所	○
建設資材リサイクル法	建設・解体時の届出	開発室	○
大規模小売店舗立地法	騒音、廃棄物排出量の予測の届出	開発室	○
農薬取締法	農薬販売の届出、帳簿管理	商品部	○
肥料取締法	肥料販売の届出 肥料生産の届出（生ごみ処理機）	商品部 ISO担当	○
フロン回収破壊法	業務用エアコン、冷凍冷蔵庫廃棄時のフロン回収業者への引渡し	開発室	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律	2,000㎡以上の店舗等建築時、省エネルギー措置を届出	開発室	○
香芝町真美ヶ丘での店舗開設に関する協定書	被緑面積、営業時間、搬入時間の遵守等	コープ真美ヶ丘 店舗支援部	○

職員教育・訓練

職員の教育を実施しました。

「環境テキスト2003」を作成し、ならこープの全職員、業務委託先の従業員を対象にならこープの環境方針、目的・目標の教育を実施しました。業務内容に応じて必要な手順を作成・整理しその教育を実施しまし

た。また、内部環境監査員養成セミナーを開催し、19名が修了しました。その他、管理者を対象にマネジメントマニュアル等の学習を行ないました。

全職員に、「環境レポート2003」を配布しています。

事故緊急時を想定した管理を強化しました

2003年度は店舗での「食用廃油処理ミスによる廃油の流出」を新たに事故緊急時と想定し、対応を強化するよう見直しました。

想定される事故緊急時	該当事業所
食用廃油処理ミスによる廃油の流出	店舗
冷凍冷蔵庫の故障による商品廃棄	全店舗、全支所、物流センター、農産加工センター
給油ミス、貯蔵タンクからの重油の漏洩	物流センター

全部署・事業所の内部環境監査を実施し、是正を行ないました。

定期内部環境監査を実施しました。今年新たに養成セミナーを修了した8名を含む15名の監査員がチームを編成し、環境マネジメントシステムが①ISO14001の規格の要求事項に適合して構築され、②適切に実施

され、維持されているかどうかについて判定することを目的に8月26日にシステム構築状況の監査、8月27日～9月11日の間に全部署・全事業所の運用監査を実施しました。監査の指摘概要は以下の通りです。

1. 指摘事項総数 84件
 重大な不適合 0件／軽微な不適合 29件
 観察 55件

2. 指摘の概要

軽微な不適合、観察ともに「4. 3. 3 目的及び目標」「4. 4. 2 訓練、自覚及び能力」「4. 4. 6 運用管理」での指摘が多く見受けられました。

内容的には、目標と実績の乖離（目標見直し等の必要性）、委託先等への教育の一部未実施、手順等の不徹底が多く見受けられました。

3. 監査結論

- ①環境マネジメントシステムがISO14001の規格の要求事項に適合して構築されているか。

（適合）／ 不適合（ 重大 ／ 軽微 ）

- ②環境マネジメントシステムが適切に実施され、維持されているか。

（適合）／ 不適合（ 重大 ／ 軽微 ）

環境マネジメントシステム

関係者との環境に関するコミュニケーションを積極的にすすめました。

組合員や職員、周辺住民など外部からの環境に関する意見、要望、苦情や遵法、事故緊急事態の発生時における外部とのコミュニケーションについて、2003年度に寄せられた環境情報の主なものは以下の通りです。

環境情報	内容と対応
異臭に関する苦情（2件）	コープたかだの入口付近が生ごみ臭いとの苦情 →リサイクルボックス内に洗浄されず異物を入れたものが混入されたため。組合員への啓発と点検を強化することを回答。
環境配慮商品への意見等（6件）	セフターE ①開封時の粉の飛散防止対策②スプーンを毎回付けて欲しい③以前と違い溶け易く使い良いうえに洗い上がりも良いとの感想。 →①メーカーへ要請したことを回答②担当者へ申し出てくださいと回答 トイレトペーパー①コアノンロールの幅が狭い②柔らかい他社製品の取扱い要望 →①組合員モニターの総合評価で83%の方の改善に対する評価を頂いている②取扱商品の中で比較的柔らかい商品を紹介。 エマールの詰替用450mlが本体500mlより価格が高いのは使い捨てを奨励しているようだとの意見 →バイヤーに指示し見直しをしたことを回答
遵法に対する苦情（2件）	早朝、火災報知機の音が鳴り響き飛び起きた。報告もない。（今年2回目） →消防訓練時に火災報知機を使用したことが原因。次回からは使用せずに訓練を実施することを回答。 避難用通路に什器備品を置かないようにとの意見。 →移動しましたと回答。
リサイクルに対する要望等（9件）	卵パックのシールが剥し難い →シールを貼ったままで回収できるように変更していることを回答 リサイクルマナーに対する意見 →組合員への啓発と点検を強化することを回答。
スーパーバッグ有料についての意見（17件）	お金を払わない人に対する意見、スーパーバッグを無料にとの要望など →買い物袋持参運動の趣旨と、代金は環境資金として運動の啓発に活用していることを回答。

第1回定期サーベイランスで「向上」の評価を受けました。

2004年2月12日～14日に1年目の定期サーベイランスが実施されました。審査結果は、「向上」「維持」「低下」「受認不可」の4段階で評価されます。ISO14001要求事項の中で、遵法性については「維持」、

目的及び目標については「向上」、運用管理については「向上」、環境マネジメントシステム監査については「向上」という評価、総合評価「向上」となりました。

環境コスト

ならコープでは1991年に環境政策の中で、総事業高

の1000分の1を環境の取り組み、対応のために活用

することを決めています。

2003年度環境活動推進費

項 目	内 訳	費用(千円)	備 考
環境事業関連	作業委託・運搬	8,924	PET圧縮機リース代、選別、運搬、施設、袋、ビン回収など
	業務用独自処理費	2,992	発泡スチロール漁箱減容作業委託、減容機リース代
	生ごみ処理機	1,160	生ごみ処理機
	容器包装リサイクル法	3,351	2003年度委託費
	酵素水	120	酵素水システム管理
	小計	16,547	
環境事業関連	車両	4,341	LPGトラック差額、プリウス、LPGスタンド
	環境マネジメント活動	2,392	ISO14001定期審査、環境監査
	小計	6,733	
組合員企画	アースデー	1,252	
	環境月間、リサイクル月間	733	チラシ、POP、啓発など
	組合員学習会、交流会	249	あすなら塾、学習講演会
	環境商品普及・マイバッグ運動	444	マイかごプレゼント
	おぎゃあプレゼント	252	おおぞらミニサンプル、ベビーソープ、POP
	諸企画(本部)	207	環境測定活動、環境家計簿、子ども一日店長
	行政・諸団体対応	178	行政フェアへの出展、協賛
	小計	3,315	
組合員活動費	環境サークル	36	
	小計	36	
研修・研究	研修会参加、書籍、諸会費	18	グリーン購入ネットワーク、環境監視研究所、アース基金
	通信費	171	
	小計	189	
人件費		8,000	環境担当職員、環境活動に関わる職員を換算
合 計		34,820	



2003年度環境保全活動のまとめ

組合員とともにすすめた環境保全活動

- 1) リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞を受賞しました。

1992年にリサイクル推進協議会会長賞を受賞して以降2回目の受賞となりました。今回の受賞は関西で初めてのクローズドシステムでのカタログリサイクルが着実に進んでいること、買い物袋持参率を約80%という高水準で維持していることなどが評価の対象となりました。



- 2) 組合員とともにくらしの中で環境保全を実践するグリーンコンシューマー運動をすすめました。

①12回目となる環境測定活動は酸性雨、大気中の二酸化窒素濃度、河川のCOD濃度の3項目で取り組み、307人（昨年375人）の組合員モニターが参加しました。全体では37市町村（昨年36）で測定が行われ、身の回りの環境を考えるきっかけづくりにつながりました。また親子環境家計簿なつ号、ふゆ号を発行し、家庭でのエネルギー使用量調査を通じ、親子でのくらしの見直し活動が86家族で取り组まれました。

②「地球温暖化問題と環境税」をテーマにあすなら塾環境コースを開催し、48人が参加しました。

- 3) アースデーを開催しました。

4月20日（日）奈良県第一浄化センター自由広場で14回目となる「アースデー[※]2003inなら大和川クリーン作戦」を開催しました。実行委員会を結成し、5行政の企画支援を得て、4企業、14団体の出展がありました。大和川のクリーン作戦では約4トンのごみが集められ、環境保全を実践する機会として多くの参加が得られました。



- 4) 行政・企業とともに環境の学習・取り組みをすすめました。

大和郡山市ごみニケーションフェア、桜井市環境フェア、香芝市ふれあいフェスタ、奈良県環境フェア、奈良「暮らし」と「環境」フェスティバルへの出展に計50人が参加し、ならコープの取り組みを広くアピールしました。



- 5) あすなら苑おてんとさん発電プロジェクトに参加しました。

市民の力であすなら苑に太陽光発電所を設置することを目指したプロジェクトにならコープが参加しました。地球温暖化問題の学習、発電所設置に向けての募金活動に取り組みました。3月には950万円もの募金が集まり、奈良県で初めての市民共同発電所が稼働しました。発電能力は20kWであすなら苑の二酸化炭素排出量が3%削減できる見こみです。

- 6) 買い物袋持参運動

2003年度は持参率79.1%となり、スーパーバッグを約429万枚削減できたことになりました。ならコープ組合員さんの理解と協力のもと約80%と高い持参率を維持しています。定期サーベイランスの「向上」の評価の一因にもなっています。

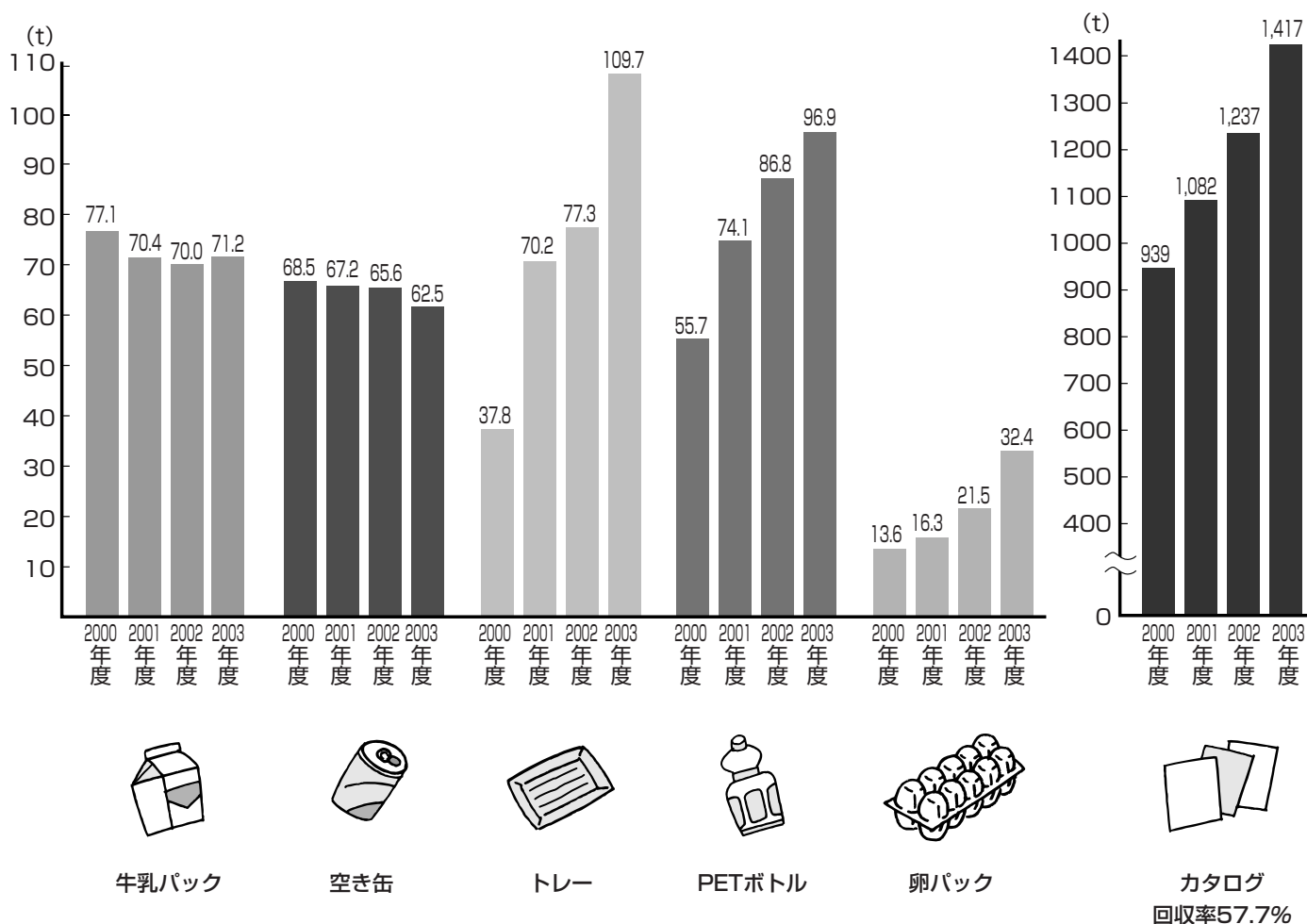
	持参率	スーパーバッグ削減枚数
2001年度	78.9%	約427万枚
2002年度	79.6%	約432万枚
2003年度	79.1%	約429万枚

※持参率算出法 {1 - (スーパーバッグ使用枚数 ÷ 店舗利用人数 × 1.1)} × 100
来店されたすべての方が買い物袋を持参されなかった場合、1回の買い物について1.1枚のスーパーバッグを使用すると想定して算出。

2003年度環境保全活動のまとめ

リサイクル・省資源の取り組みへの参加が広がりました

■過去4年間のリサイクル回収量の推移



牛乳パックの回収は、前年対比101.8%と増加し減少傾向に歯止めがかかりました。空き缶については、前年比95.3%と年々減少し続けています。プラスチック系の容器包装の回収は、食品トレーが前年比113.2%、PETボトルが前年比111.7%、卵パックが前年比150.9%と増加しています。カタログは、

1,417トン（前年比114.6%）を回収、回収率は前年比2.6%増の57.7%になりました。

ならこブ開発商品の醤油（1.8ℓ）と酢（900ml）の瓶はリターナブル瓶^{※9}を使用しています。1年間の回収率は、醤油89.8%（前年71.5%）、酢33%（前年31%）と前年を上回ることができました。

リサイクルコスト表

単位：円

品目	支出		収入	純支出	1本当り費用 () 昨年
	内容	コスト	売却金		
PETボトル	作業委託	4,449,082			
	搬送費	1,199,500			
	圧縮機リース	412,800			
	作業施設償却	36,381			
	PET費用小計	6,097,763	1,454,778	4,642,985	2.9 (3.13)
食品トレー	搬送費	0			
	分別作業費	0			
	トレー費用小計	0	0	0	0 (0.00028)
空き缶	搬送費	1,015,000			
	空き缶費用小計	1,015,000	0	1,015,000	0.41 (0.41)
卵パック	搬送費	680,640			
	仕分け作業費	13,680			
	卵パック費用小計	694,320	320,700	373,620	0.18 (0.14)
牛乳パック	牛乳パック費用小計	0	350,510*		
その他	回収袋	1,053,612			
	倉庫移動費	277,400			
	空きびん搬出費	30,000			
	内掛け袋	1,530,958			
	その他費用小計	2,891,970			
	費用合計	10,699,053	1,775,478	8,923,575	

※は、預り金で計上

回収されたペットボトルから新しい商品が生まれました

ならコープの店舗で回収しているPETボトルは物流センターでリングなどの除去をする中間処理を行なって、ウツミリサイクルシステムズ(株)でリサイクルしています。これまでは主に卵パックなどにリサイクルされていましたが、このたび新たに日生協コープ商品の台所用洗剤（2品種・4アイテム）の容器に生まれ変わることになりました。この商品の容器ボトルはリサイクルPET100%で作られていることが大きな特徴ですが、同じリサイクルといってもボトルに再生するのは難しいことだということです。ならコープで集めたPETボトルはきれいで大変品質が高いということからこの商品の原料に指定されることになりました。



店舗のリサイクル回収コーナー



事業活動での環境配慮の取り組みをすすめました

事業活動に伴う省エネルギー・省資源の取り組み

■事業活動でのエネルギー使用による二酸化炭素排出量(炭素換算)

	2003年度使用量	2002年度使用量	係数	2003年度二酸化炭素排出量 (kg-C)	2002年度二酸化炭素排出量 (kg-C)
電気 (kwh)	14,948,490	14,812,863	0.104	1,554,643	1,540,538
水道 (m3)	86,601	78,572	0.160	13,856	12,572
ガス (m3)	71,853	77,624	0.530	38,082	41,141
ガソリン(リットル)	84,869	88,185	0.643	54,571	56,703
軽油(リットル)	257,945	243,717	0.721	185,978	175,720
LPガス	186,939	176,930	0.451	84,309	79,795
重油(リットル)	533,202	457,648	0.736	392,437	336,829
ごみ (kg)	484,323	495,288	0.661	320,137	327,385
合計				2,644,014	2,570,683

*ごみの排出量の2002年度数値は、2002年度下期実測値×2としている。
2002年度下期から実測を開始したため。

2003年度の電気、車両燃料、廃棄物などの削減(抑制)目標を設定し、省エネルギーの取り組みを強化しました。2003年度1年間のエネルギーの使用に伴う二酸化炭素排出量(炭素換算)は2,644,014kgとなり前年比102.8%になりました。

①電気の使用量は、物流センターの稼働時間の延長、農産加工センターの稼働、店舗のリニューアル等のため、電気使用量を2001年対比106.2%に抑制することができました。また、2002年度実績対比では、農産加工センターの増加分とコープ朱雀分を除くと99.7%となります。

②車両燃料の使用量はガソリンが前年比97.5%、軽油が105.2%、LPGが105.7%となりました。ガソリンは無店舗事業で前年比6.5%削減できたことが要因となっています。軽油、LPGは配送コースの増加による燃料消費の増加が要因となっています。

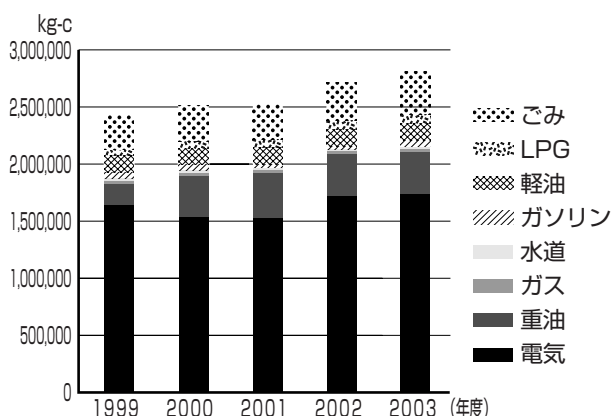
③コピー用紙の使用量は63,645kg、目標比109.1%と大幅に増加しました。支所・店舗・本部オフィスで大幅に増加しています。2002年実績対比では全体で96.2%となり支所での削減が進みましたが、店舗・本部オフィスでは増加しています。

④ガス・水道の使用については、数値の目標は設定せ

ずに、使用量の多い店舗での週次のメーター点検等で維持管理しました。

⑤物流センターに設置している自家発電装置に使用している重油使用量は16.5%増加しました。その結果、物流センターでの電気使用量は前年対比で98.4%と減少しましたが、合計の二酸化炭素排出量は12.9%増加しました。農産加工センター稼働に伴う夜間ピックの開始(3ラインが新たに稼働:18:00~21:30)による増加です。

過去5年間の二酸化炭素排出量推移(炭素換算)



エネルギーの使用、ごみの排出を二酸化炭素排出量に換算し、合計しています。

事業系廃棄物削減・リサイクルの取り組み

①2003年は支所、店舗、物流センターでの事業系廃棄物の排出量を504,725.8kg以下に抑制する目標を掲げ、96.0%に抑えることができました。

	事業系廃棄物排出目標	事業系廃棄物排出量
支所(6支所)	55,334.3kg	56,972.7kg
店舗(9店舗)	395,391.5kg	354,369.9kg
物流センター	54,000.0kg	72,980.2kg
合計	504,725.8kg	484,322.8kg

②生ごみリサイクル

コープ六条に設置した堆肥化型生ごみ処理機「大和ゆいまる」で農産・水産部門の生ごみをリサイクルしたほか、ディアーズコープいこま及びディアーズコープたつたがわの魚アラは業者に引き取られ、飼料としてリサイクル、ディアーズコープいこまの魚アラを除く生ごみは生駒市し尿汚泥リサイクル事業に参加し、全量飼料化しました。3月にオープンしたコープ朱雀の生ごみも業者に引き取られリサイクルされています。

③発泡スチロール漁箱のリサイクル

物流用梱包材として使用している発泡スチロールの漁箱と、廃棄する共同購入用の保冷シッパーを30,924kg(目標対比112.7%)減容し、業者に引渡しプラスチック原料としてリサイクルしました。

④段ボール・事業所古紙のリサイクル

物流センター、店舗、支所で発生した段ボールは全量リサイクルしました。物流センターでの再資源化量は484,250kg(前年比79.9%)となっています。また店舗を除く各事業所で発生する紙ごみは古紙業者に引渡し、151,255kg(前年比103.6%)が古紙原料としてリサイクルされました。

⑤内掛袋のリサイクル

共同購入・戸配・荷受けハウスお届け時に使用しているポリエチレン袋のリサイクルを2003年5月から全支所で開始しました。17,732kg回収(回収率26%)し、リサイクル業者に引き渡されました。

環境に配慮した商品を積極的に普及しました。

(1)グリーンコンシューマー運動を積極的にすすめる立場から、環境配慮型商品の定義と基準づくりをすすめる、2003年度の実績は下記になりました。

◇環境に配慮した商品(雑貨・日用品分野)の定義

①水資源のために⇒消費される過程において、有機物や化学物質で川や海などを汚さない商品。

②大気のために⇒消費された後の過程において、焼却時にダイオキシンを発生させ大気を汚さない商品。

③木と森のために⇒限りある木や森を守るために再生紙を使った商品。

④資源を有効に利用するために⇒何度も使える容器、詰め替えタイプの物やリサイクルされた商品。

環境に配慮した商品(雑貨・日用品分野)の類型と供給実績

大分類	商品分類	主な商品	供給点数	供給高(千円)
水資源のために	家庭からの水の汚れを減らすための商品	石けん類、複合石けん類、石けん・界面活性剤の100%が石けんの洗浄剤	197,064	96,591
		台所用水切り袋、廃食用油処理用品	76,415	27,610
		海面活性剤不使用はみがき	8,883	1,653
	製造段階での塩素漂白を排除した商品	コーヒーフィルター等。	51,178	11,421
大気のために	焼却処理で塩素系ガスを発生させない商品	食品ラップ、救急絆、ゴム手袋	155,151	27,513
木と森のために	古紙を利用した商品	トイレットペーパー類、ティッシュ類、文具類。	245,494	160,787
	その他	竹材などを利用した割り箸など	3,099	1,089
資源を有効に利用するために	詰替え商品	洗濯関連商品、シャンプー、リンス類、入浴剤、脱臭剤などの詰替え商品	129,325	48,437
	リサイクル商品	再生アルミ商品(レンジパネル、フライパンなど)再生ペットボトル商品(化学雑巾など)	27,957	14,241
合計			894,566	389,345

(2)商品の容器包装の削減を計画し、PB商品のノントレ化及び材質の変更をしました。

(3)容器包装リサイクル法の2003年度委託費用として

3,971,686円支払い、2002年度精算額として620,481円が相殺されました。2004年度委託費用は400万円程度になる見込です。



2003年度環境監査報告書

2004年5月15日

市民生活協同組合ならコープ

理事長 瀧川 潔 様

市民生活協同組合ならコープ 環境監査委員会

委員長 松村 佳子 (奈良教育大学教授)

大沢 志佳子 (日本生協連環境事業推進室)

前田 美代子 (くらし担当常任理事)

杉木 愛子 (環境活動担当理事)

鎌田 淳子 (環境活動担当理事)

貴田 章子 (監事)

西谷 はる美 (組合員代表)

森 鈴子 (組合員代表)

2003年度環境監査報告書

ならコープ環境マネジメント・監査規程第6条、第7条および第8条に基づき、「2004年度版 環境報告書」記載予定の環境パフォーマンスの有効性、及び今後の目指すべき活動等の提案について、独立した立場から監査を実施しましたので以下の通り報告いたします。

1. 監査概要

環境監査 2004年5月8日(土) 9:00～14:30

2003年度ならコープ環境事業のまとめの書類監査 被監査者 森専務理事他9名

2. 2003年度実績の評価

- (1) ISO14001を取得され、各部署での環境への取り組みの高まりがみられ、事業活動に伴うエネルギーの使用量や廃棄物の排出量、環境配慮商品の提供などについて数値目標が示され実績把握がなされていることは評価できます。また、定期サーベイランス実施後「向上」という評価を受けられたことは、高く評価されます。
- (2) ならコープが地域の組合員の食の安全・安心に積極的に取り組み、「減農薬商品」を増やし「地産地消」を進めていること、また、買い物袋の持参率が他の流通業と比較して高いこと、容器包装などのリサイクル率も高く回収状況が良好なことは、納入業者や組合員への積極的な働きかけの事例として、評価できます。
- (3) 「あすなら苑おてんとさん発電プロジェクト」をならコープが支え、地域の諸団体とともに、募金活動に取り組んだことは、一般市民がエネルギーと地球温暖化問題を考える学習の一環を担った、環境保全活動として評価できます。

3. 今後の取り組みに当たっての意見

今後の取り組みにあたって、当監査委員会から次の意見を提案するとともに、いっそうの環境保全活動の推進がなされるよう期待します。

- (1) ISO14001の取得により、職員の意識向上がはかられたことは、大きな進歩として評価されますが、ISO14001取得の意味と目的を組合員も含めて一人ひとりが理解し、経営に反映させていくことが大切であると考えます。
- (2) 年度当初に目標としてかけられた項目のうち、非達成項目が見られます。そのうち、特に車の燃料使用料およびコピー紙の使用量については、非達成の原因の分析と検討を行い、業務の手順を変えることも視野に入れた抜本的な対策の検討と、改善に向けての努力が求められます。
- (3) 容器包装リサイクル等に取り組む組合員一人ひとりの活動が、環境保全に貢献していること、また自分たちの健康へもつながっていることが理解できるような、情報提供や学習活動をさらに進めていかれることを期待します。
- (4) 「アースデー」や「あすなら苑おてんとさん発電プロジェクト」のように、行政や他団体とともに環境保全活動に取り組んできたこれまでの経験を踏まえて、組合員並びに地域社会での環境保全活動へのよりいっそうの支援と、パートナーシップの構築を期待します。

以上



2003年度環境監査報告書への対応

環境監査委員会様

2004年5月17日
市民生活協同組合ならコープ 常勤理事会

環境監査報告書への対応

はじめに

ならコープの2003年度の環境保全活動、環境マネジメント活動の監査をいただき、ありがとうございます。
2003年度は環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得して運用を開始する1年目としての環境マネジメントシステムの維持・強化に努めて参りました。月次の進捗管理報告書での点検及び是正、内部環境監査の実施などの取り組みを行ってきました。2004年2月の1年次サーベイランスでは、総合評価で「向上」との評価を得ることができました。

ISO14001の認証を取得したことによる効果として評価いただきましてありがとうございます。また、今後の取り組みにあたっての貴重なご意見をいただき感謝致します。

今後も組合員とともに、環境負荷の低減と地球温暖化防止を中心とした持続可能な循環型社会構築のために取り組みをすすめて参ります。また、今回の監査でご指摘を受けました内容を真摯に受け止め、常勤理事会として2004年度以降に取り組むべき課題として以下にご報告申し上げます。

1.職員意識向上のための取り組みについて

環境マネジメントシステムの推進においては、職員ひとりひとりの主体的な関わりが大変重要です。「ならコープがなぜ、環境保全活動に取り組むのか」という環境方針の原点に立ち返り、職員の意識向上のための取り組みを行います。全部署・全事業所での特徴的な取り組みを部内報で取り上げるなど、各職員の工夫や実践がクローズアップできるよう努めます。

2.事業活動に伴う環境負荷の低減について

日本生協連は温暖化防止自主行動基準の枠組みとして、「供給商品1点あたり」のCO2排出量を、2002年度対比で2006年度に8%以上の削減をめざすことを策定しました。ならコープにおいても「自主行動基準」として同期間でのCO2排出量の低減をめざします。具体的には、増加する車両燃料やコピー用紙の使用量については、原因分析を行ない効率的な業務運用を進めることで削減を図りたいと考えます。車両燃料についてはハード面・ソフト面合わせて他生協はじめ先進事例に学んで積極的に取り組みます。コピー用紙の使用量については、会議等の持ち方の抜本的な改革や裏紙使用などの具体的な行動提起を行ない削減に努めます。

3.情報提供及び学習活動の取り組みについて

環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律がこの10月から完全実施されます。ならコープでも地域社会に貢献できる外部環境活動の支援を積極的に取り組んで行きたいと考えます。また、ホームページをはじめとした媒体を通じて環境に関する情報を提供して行きます。

4.組合員及び行政や他団体とともにすすめる環境保全活動について

アースデーの取り組みやおてんとさん（太陽光発電所設置プロジェクト）への参加に対して評価いただいたことは今後の活動にとっても大変な励みになります。組合員をはじめ、行政や他団体とともに環境保全活動に取り組んできたことをより一層すすめて、地域社会との新たなパートナーシップを築けるように努めます。

以上



2004年度環境事業計画

- (1) 新環境政策に基づいて、グリーンコンシューマー活動を地域で展開していきます。
- ①「アースデー」は環境問題を考え、行動する日として位置づけ、県内の市民団体や行政・企業とともに、河川清掃を軸に様々なテーマで取り組みをすすめます。
- ②6月環境月間、10月買い物袋持参運動、11月リサイクル月間として、環境にやさしい商品の普及やリサイクル活動を推進します。
- ③奈良県環境県民フォーラムとの協力関係を強めるとともに、小学校の環境教育の支援するなど、生協らしい社会貢献を推進します。

■ISO14001の計画として取り組みをすすめます

環境方針	全体の環境目的(2007年3月の到達)	全体の環境目標(2005年3月の到達)	実施部署
環境に配慮した商品の品目を増やし、積極的に普及します	環境に配慮した商品の品目を拡大し、普及します	有機農産物の取扱いを2品目、地元(奈良県産)農産物の取扱いを4品目、合計6品目の取扱いを開始する。 環境配慮型商品の基準に添った商品の選定と必要な情報を現場へ提供し商品普及の援助を行なう。 環境配慮商品重点品目を6月、11月の普及月間に前年対比100%普及する(点数) ふとん打ち直し、丸洗い、エアコンクリーニングの利用者を2003年度対比5%増やします	商品部 商品部 店舗
環境に配慮したサービスの普及をはかります	環境に配慮したサービスの普及をすすめます	事業活動に伴う電気使用量を2003年度実績比110.4%に抑制します	コープサービス
事業活動に伴う電気使用量を抑制します	事業活動に伴う電気使用量を2003年度対比110%に抑制します(コープ学園前除く)	使用燃料の削減(エコドライブ)を図り、配達ポイント100件あたりの使用燃料を年間累計で2003年度実績比100%に維持します 営業推進部での訪問ポイント100件あたりの使用燃料を2003年度実績100%を維持します 営業推進部での加入登録1人あたりの使用燃料を2003年度実績比107%を維持します 共済推進グループでの訪問ポイント100件あたりの使用燃料を2003年度実績比98%に削減します	全部署 (コープ学園前除く)
事業活動に伴う車両燃料の使用量を抑制します	配送及び仲間づくりでの車両燃料の使用を配達(訪問)ポイントあたり2003年度実績に維持します	コピー用紙の使用量を2003年度実績に維持します	全支所
事務用紙の使用量削減をすすめます	コピー用紙の使用量を2003年度実績比96%に削減します	無店舗・店舗の排出量は、2003年度実績を維持し、物流センターは5%削減します	営業推進部
事業系廃棄物の削減と再資源化をすすめます	事業系廃棄物を2003年度実績対比100%に維持します	マイカゴ、マイバッグを2,500個普及します	営業推進部
買い物袋持参運動を積極的に呼びかけ、レジ袋の使用量の抑制をすすめます	マイバッグ、マイカゴの普及をすすめ、買い物袋持参運動を推進します	内掛け袋のリサイクル回収率25%を達成します。 カタログの回収率を2003年度対比1%以上増やします 組合員からのリサイクル回収(重)量を増やします ●牛乳パック 2002年度実績の維持 ●PETボトル 2002年度対比5%増加 ●食品トレイ 2002年度対比20%増加 ●空き缶 2002年度実績97%に維持 ●卵パック 2002年度対比30%増加	共済推進グループ
容器包装及び共同購入カタログリサイクルへの参加を広げます	内掛け袋のリサイクル回収率27%を達成します 共同購入カタログの回収率を2003年度対比2%以上増やします 組合員からのリサイクル回収(重)量を増やします ●牛乳パック 2002年度実績比97%に維持 ●PETボトル 2002年度対比10%増加 ●食品トレイ 2002年度対比40%増加 ●空き缶 2002年度実績比95%以上に維持 ●卵パック 2002年度対比50%増加	環境保全企画の開催、環境測定活動の実施、環境資金活用用途の検討、環境保全活動支援計画の策定を行ないます。	全部署
組合員による環境保全活動を積極的に支援します	地域での環境保全活動の計画の立案をし、実践します。	7事業所の調査を実施します	全店舗
ならコープの施設開発での環境配慮を推進します	既存施設のリサイクル可能性・環境負荷度の調査を行ない、開発手順書の作成を行ないます		物流部 無店舗支援部 ISO担当
			組織広報部
			開発室



2003年度の社会的取り組み

1) コンプライアンス宣言

2003年度も食品偽装事件や企業の不祥事が後を絶たず、消費者の事業者を見る目はますます厳しくなっています。ならコープでは、組合員と消費者の皆様の

信頼を裏切ることなく、正直・誠実を大切にしながら民主的経営を実現していくために、「ならコープ倫理法令遵守方針」を制定しました。

ならコープ倫理法令遵守方針

ならコープは天然トラフグ誤表記、お米の偽装問題などの商品不祥事を通じて自らの事業の弱点を認識するに至りました。組合員、消費者の信頼を回復し、真に民主的な経営を実現するために、正直、誠実を大切にするとともにコンプライアンス経営を宣言します。

【基本理念】

ならコープは、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯を生活協同組合の基本的価値とし、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とします。

【基本方針】

ならコープは事業と運動を通じて、地域の人々のくらしと文化に貢献することを目的に、食品を中心とした商品の供給、共済・サービスの事業、組合員活動などを行っています。これを踏まえ、倫理法令遵守につとめます。

そのために、当組合の事業活動、商品、サービスについて公正かつ適切な業務を遂行する行動規範を策定し、倫理法令遵守マネジメントシステムと倫理的風土の継続的改善をはかり、不正防止・責任体制の確立に取り組みます。この取り組みをすすめるために全役職員に対する教育・啓蒙を積極的に行い、以下の活動をすすめます。

- (1) 私たちは、生活協同組合の基本的価値と社会的責任及び公共的使命を認識し、健全な業務運営を行います。
- (2) 私たちは、事業活動に関連する法令のみならず、自ら定めた自主行動基準の精神を遵守します。
- (3) 私たちは、すべての人格を尊重し、高い倫理感と責任感を持って、誠実に職務を行います。また利益と倫理が相反する場合は迷わず倫理を優先します。
- (4) 私たちは、安心・満足・信頼を旨とした高品質の商品とサービスを提供します。
- (5) 私たちは、事業活動、組合員活動などについて正しく理解をいただけるよう適時、適切な情報開示を行います。
- (6) 私たちは、地域社会に積極的に参加し、社会の信頼を得るようにします。
- (7) 私たちは、事業者責任としての環境負荷軽減にとどまらず、地域社会の環境保全に積極的取り組みます。

この倫理法令遵守方針は、ならコープ内外に公表します。

2004年3月25日
市民生活協同組合ならコープ
専務理事 森 宏之

2003年度の社会的取り組み

2) 安心・安全の商品事業の追求

①フードセーフティーシステムの構築と実践を約束

7月1日に、新聞紙上で、フードセーフティーシステムを構築するための品質保証プログラムとして、5つの約束を宣言しました。

ならコープ、5つの約束

- ①「栄養」「衛生」「安全」を確保するため、これまで以上に微生物検査、残留農薬や食品添加物検査の回数を増やし、DNAによる米の品種判定などの最新の品質検査も実施します。
- ②生産者の顔が見える食品流通をめざし、トレーサビリティ（製造履歴の追跡）システムを導入します。
- ③組合員・消費者の方々の声を積極的にお聞きし、「親切・丁寧・適正」な商品表記・表示をおこない、「誠実・正確・迅速」に商品情報をご提供します。
- ④近畿7生協による「コープきんき事業連合」を創設し、協同の力でより高品質の商品づくりを実現します。
- ⑤全国の生協が一緒になって求めてきた食品安全基本法と改正食品衛生法が成立しました。この法律が実効性を持って運用されるよう、今後も発言、提言をおこなっていくとともに、「奈良県における食品の安全・安心の確保のための基本方針」づくりに協力します。

②商品政策の改定

商品の安心・安全確保と環境配慮をあらためて明確にするため、「商品政策」を全面的に改定しました。2004年度は、新しい商品政策のもとに、食品添加物基準の見直し、農薬のポジティブリスト化、産直基準の見直しに取り組みます。

③商品表示の適正化

無店舗事業の商品案内書の信頼性を高めるために、表記内容の点検と見直しやITを活用して表記間違いの低減に取り組んで



きました。専門家(近畿HACCP実践研究会理事)、消費生活アドバイザーにも加わっていただき、曖昧表現の

是正、雑貨・衣料品の誇大表現の検証、消費者にわかりやすい表記など改善に取り組みました。

④食品に係る法令遵守教育の実施

行政や専門家を講師に食品表示研修を開催し、商品仕入業務、商品案内書作成業務に携わる職員全員が受講しました。また、第2回取引先品質保証研修会を開催し、お取引先、生産者の皆さん、ならコープの役職員201人が「企業倫理」を学びました。



⑤商品リスクアナリシス手法の導入

商品リスクアナリシス委員会には商品仕入、品質保証、物流、広報、店舗・無店舗の担当職員が参加し、商品リスクを想定しながら仕入業務に反映、リスクコミュニケーションに活かしています。

⑥食の安全懇談会と「ならの食の安全・安心確保の推進基本方針」策定に協力

2002年度に引き続き、奈良県生活協同組合連合会、奈良県生活学校連絡協議会、JAならけん、消費生活相談員、コープ自然派奈良とともに食品の安全懇談会を開催し、食の安全の取り組みの意見交換をおこないました。奈良県の「ならの食の安全・安心確保の推進基本方針」策定には瀧川潔理事長が委員として参加し、消費者の声を行政に反映する仕組みづくりを要望し、反映されました。

⑦地産地消をすすめる「食べる“なら”大和」

地元でとれたものを地元の人が食す「地産地消」は、地域経済の活性化、地域の環境保全につながります。ならコープは創立以来、野菜、鶏卵、豚肉、鶏肉、基礎調味料などは県内産にこだわってきましたが、創立

30周年を期に、あらためて消費者と生産者の相互理解をすすめるために3月から「食べる大和キャンペーン」の取り組みをスタートしました。およそ180の県内産品を取り扱います。



⑧商品検査の充実

安心・安全の商品事業を支える商品検査は、微生物検査を14,389検体、理化学検査を2,468検体で実施しました。理化学検査の中には「米のDNAによる異種米判定」も含まれています。2003年度は、6回、合計136商品について実施し、異種米の過失混入や偽装がなかったことを確認しました。

3) 相互扶助の社会を目指して

①音訳ボランティア活動

目の不自由な組合員にとって共同購入や戸別配達には便利な仕組みではありますが、商品案内書を読むことは困難でした。そのため、19人の組合員ボランティアが音訳、テープに録音してお届けしています。現在30人にご利用いただいています。



②たすけあいの会の活動

たすけあいの会は、ご高齢の組合員や障がいをお持ちの方、産前産後の方の家事(買物や掃除)援助を目的に

1989年にスタートした組合員のボランティア活動です。60歳未満の介護保険が適用されない方にもご利用いただくことができます。“組合員どうしのたすけあい”であり、気さくな対応が喜ばれています。

年度	2001	2002	2003
活動会員数	168	155	136
利用会員数	106	104	120
活動総時間	5,630	5,296	5,561

③配食サービス、食事の会、ミニデイサービス

各お店の調理施設を利用して、組合員のボランティアサークルがご高齢の方とおいしい食事やたのしいひと時を過ごしています。配食サービスはご自宅に手づくりのお弁当をお持ちしています。食事の会は、お店の会議室を利用していっしょに食事を楽します。いろいろなお話をしながらの楽しい時間です。ミニデイサービスは、コープみみなしとコープおしくまの2店舗で開催しています。ゲームや歌などを楽しんでいます。

高齢者食事サービスの状況

年度	2001	2002	2003
サークル数	11	11	11
開催数	187	209	178
参加者数	5,756	7,848	6,169

④ホームヘルプサービス

2002年度から、本格的な介護サービスをご提供するために介護保険事業(訪問介護事業、居宅介護支援事業)を開始しました。2級ホームヘルパー養成講座は1995年から始めており、すでに574人が修了されています。1999年には組合員をはじめとする多くの方の募金で建設された特別養護老人ホームあすなら苑を拠点に研修をおこなっています。

⑤ユニセフ・被爆者救援募金とイラン地震被災者募金、ユニセフ奈良県支部との協同

開発途上国の子どもや女性支援のためのユニセフ募金と広島、長崎の赤十字病院や原爆養護ホーム、被害者団体協議会、相談員の会などの支援協力のための被爆者救援募金には1984年度から毎年取り組んでいます。2003年度はユニセフ募金に2,643,473円、被爆者救援募金に2,187,176円の善意が寄せられました。

2003年度の社会的取り組み

また、これとは別に2004年1月にイラン地震被災者救援募金に取り組み、組合員から寄せられた約273万円を現地に送りしました。

⑥子育て広場の活動・子ども新聞・店舗サマースクール

子育て中の若いご夫婦の悩みを少しでも解消し、子どもたちをのんびり遊ばせることができるフリースペース「子育てひろば あっぷっぷ」が6月にスタートしました。コープみみなしとディアーズコープいこまの両店舗会議室を使用しています。毎回約20組の親子が利用されています。

夏休みには小中学生がお店の作業を体験する「コープサマースクール」を開催、商品の陳列や野菜のパック、店内放送などの仕事を体験しました。

小中学生が記者になってつくる「せいきょう子ども新聞 にじのはし」は3回発行しました。「恐竜と星の取材(青少年科学センター)」「イルカの生態取材(海遊館)」「グエン・ドクさん取材」などをしました。



⑦ピースリレー

東京から広島まで各地の生協組合員が平和の取り組みをリレーでつなぐ「ピースリレー」が、6月26日から30日までの五日間、奈良県にやってきました。コンサートや被爆体験のお話会、平和行進などに取り組み、全体で約550人の参加がありました。

4) 男女共同参画社会を目指して

男女が共に生き生き働くことができる職場づくりを目指して、10月に男女共同参画プランを策定しました。

ならコープがめざすもの ＜基本的な考え方 ～答申より～＞

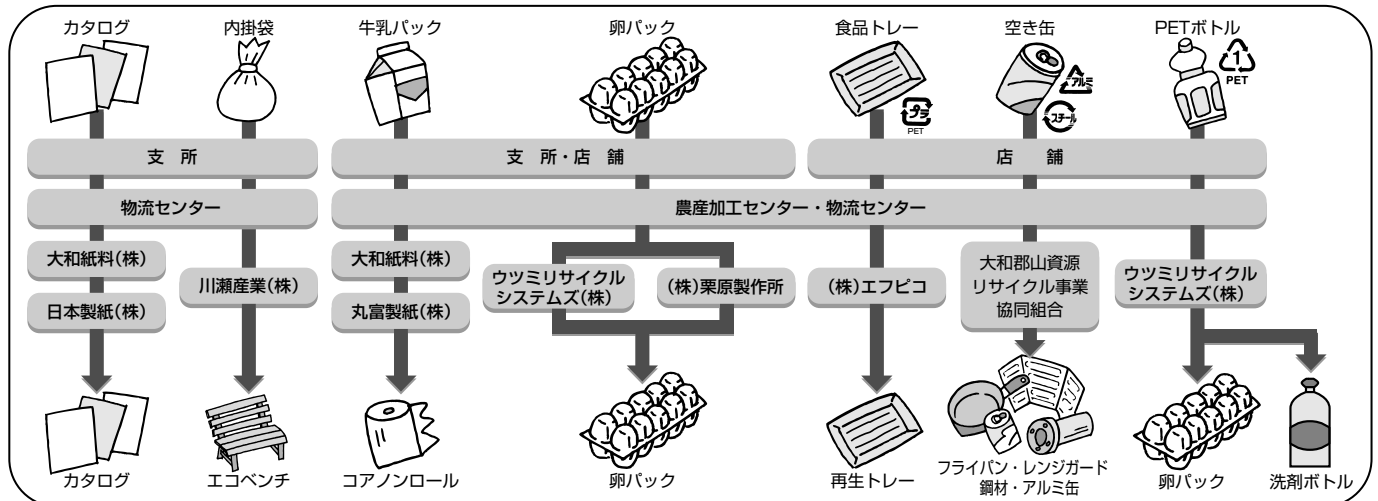
- (1) 職場における男女共同参画プランは、男女問わず職員が働きがいの持てる職場運営・マネジメントを育てていくこと、職場・家庭・地域での活動をバランスよく担う新しい時代の生き方をすべての職員が体現できるような職場風土を作り上げていくことを大切にすすめます。
そして、組合員との共感を大切にし、組合員の一層の運動参加に対応できる職員組織を築いていくことを目指します。
- (2) 組合員活動における男女共同参画プランは「新しい組織機構」「運営発想の逆転」のふたつを結びつけながらすすめます。
- (3) 事業活動における男女共同参画プランは、直接組合員と接する正規・パート職員など、すべての職員が元気になる制度とします。
- (4) 男女共同参画プランを活発にすすめるためには、各職員の意識を高めていくことが大切です。その中で、中期行動計画の具体化をはかります。
- (5) 運動と事業が結合した“見える活動”を発見していくことが重要です。そうした提言活動と共に、地域社会の中で、ならコープの組織が『元気なモデル』となることをめざします。
職員ひとりひとりが「ポジティブ・アクション」を大切にします。



資料

ならコープのリサイクルルート

2003年4月現在



語句説明

- *1 ISO14001
ISOとは国際標準化機構の略で、14000シリーズは企業の環境負荷低減活動を管理するシステムの総称をさす。ISOが定めた環境マネジメントシステムに関する国際規格。
- *2 地産地消
地域で生産したものを地域で消費するという考え方。輸送による環境負荷の軽減、地域の農業を守り育てるという観点から全国で推進されている。
- *3 グリーンコンシューマー
環境への影響を考慮して、環境に配慮した消費行動をとる生活者のこと。
- *4 4R
リフューズ（拒否）、リデュース（発生抑制・減量）、リユース（再利用・繰返し使う）、リサイクル（再生利用）の頭文字Rをとって環境の4Rと言う。
- *5 グリーンツーリズム
農林漁村に滞在し、その地域の自然や文化、人々との交流を楽しむ活動のこと。
- *6 ゼロエミッション
事業活動で発生する廃棄物を発生抑制、リユース、リサイクルして、埋めたてる廃棄物をゼロにすること。
- *7 COD濃度
Chemical oxygen demand(化学的酸素要求量)のこと。水中の有機物などを酸化剤で酸化する時に消費される酸化剤の量を酸素の量に換算したものです。水質の汚染度の目安として用いられる。
- *8 アースデー
1970年4月22日にアメリカの学生デニス・ヘイズ氏の呼びかけではじまった環境を守る行動を実践する日をさす。ならコープでは他団体とともに、4月22日前後にアースデーイベントを開催している。
- *9 リターナブルびん
使い終わった後洗って生産者に返し、繰返し使用するびんのこと。=リユース ⇔ワンウェイびん
- *10 容器包装リサイクル法
商品などに容器や包装を使用する事業者にとり、それらを自らリサイクルするか、その使用量に応じて委託費用を支払い再商品化する義務を定めた法律。

ならコープの概要

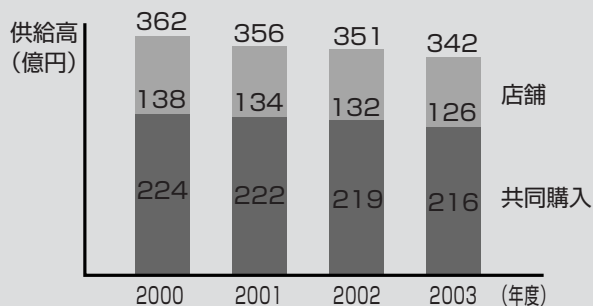
(2004年3月31日現在)

- 【創 立】 1974年(昭和49年)7月25日
【本 部】 奈良市恋の窪一丁目2番2号
☎0742-34-8731(代表)
【組合員数】 206,821人
【加 入 率】 38.9%
【出 資 金】 66.4億円
【職 員 数】 1,801人
【事業所数】 22ヵ所(支所6、店舗10、その他7)
【供 給 高】 342億51百万円(共同購入216億29百万 店舗126億22百万)



ならコープは2003年3月に
ISO14001の認証を取得しました。

■最近の供給高の推移



2004年5月発行

次回発行予定 2005年5月

本報告書の内容及びならコープの環境保全活動等についての
ご意見・ご質問は下記までお問い合わせ下さい。

ISO担当 ☎:0742(33)9516 FAX:0742(34)8730

ホームページ <http://www.naracoop.or.jp/>

奈良市恋の窪一丁目2番2号